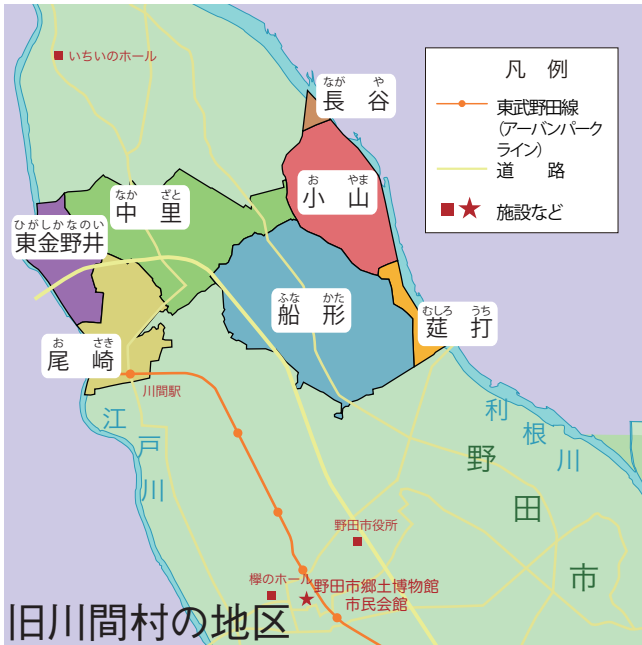


# 理想の村を追い求め実現した 染谷亮作の足跡をたどる



旧川間村は、明治22(1889)年に東葛飾郡川間村として誕生し、昭和32(1957)年に野田市に編入されるまで存在した村で、現在の尾崎、東金野井、中里、船形、小山、蕨打、長谷地区などが含まれていました。染谷亮作は旧川間村を「理想の村」にするために学校の建設や鉄道の誘致、水害の克服に尽力されました。

染谷亮作(1876~1959)

は、旧川間村で村長や村会議員、東葛飾郡会議員を歴任した人物です。

亮作は、2人の恩師との出会いによって、自分の理想とする村づくりを見出ししました。

高度な農学を学ぶため、亮作は帝国大学農科大学(現在の東京大学農学部と東京農工大学)に進学を決めますが、保証人探しに奔走します。そこで亮作の頼みを受けて保証人になったのが、1人目の恩師、本多静六です。

静六は、林学や造林学、造園学の先駆者で、日比谷公園や明治神宮を設計するなど、「日本の公園の父」と称される人物で、市内では清水公園第二公園の設計を手がけています。

亮作は、書生として共に生活し、いざとなれば公共に私財をなげう

つ静六の姿勢を学びました。

卒業した亮作は広島で技手として働いた後、愛知県碧海郡安城市(現在の安城市)で新設する農林学校の農場主任に就任します。

その学校で校長を務めていたのが、2人目の恩師、山崎延吉です。

延吉は、農村での教育に力を入れた人物で、「農村の作興には学生だけでなく、農民と農村そのものに教育が必要」という思想は、亮作に大きな影響を与えました。

## 「理想の村」の実現へ

農学を生かした仕事にやりがいを感じていた亮作は、父の急逝を受けて実家の農業を継承。しかし、村会議員の当選を契機に旧川間村で理想を追求することになります。

最初に川間小学校を建設しますが、ここにも亮作の理念が表れています。